

# 指標シート

自 平成28年4月1日  
至 平成29年3月31日

全体

(単位:千円)

	指標	計算方法	金額等
貸借対照表	資産合計		246,694,449
	負債合計		131,959,202
	純資産合計		114,735,247
	固定資産等形成分		236,339,870
	余剰分(不足分)		△ 121,604,623
	他団体出資等分(連結の場合のみ)		-
行政コスト計算書	経常費用		67,293,163
	経常収益		16,260,728
	純経常行政コスト		△ 51,032,436
	純行政コスト		△ 52,215,533
純資産変動計算書	財源		53,149,101
	本年度差額		933,568
	本年度純資産変動額		2,177,239
	本年度末純資産残高		114,735,247
資金収支計算書	業務活動収支		7,126,457
	投資活動収支		△ 5,950,976
	財務活動収支		△ 1,357,694
	本年度末現金預金残高		7,694,476
主要指標	<b>資産老朽化比率</b>	減価償却累計額／公共資産合計－土地＋減価償却累計額	50.6 %
	<b>将来世代負担比率</b>	地方債残高93,596,620千円／有形・無形固定資産合計222,393,460千円	42.1 %
	<b>債務償還可能年数</b>	(将来負担額－充当可能基金)／(資金収支計算書の業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額－業務支出)	8.6 年
	将来負担額※1		81,280,159
	充当可能基金※1		8,574,202
	業務収入等	業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額	68,016,959
	業務支出		59,521,051

※1 将来負担額及び充当可能基金残高については、地方公共団体財政健全化法上の将来負担比率の算定式による。

※2 業務収入は、資金収支計算書(地方公会計)における業務収入(地方税、地方交付税等)による。  
また、「業務収入等＝業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額」とする。